

【緊急レポート】

Nasdaq 4%超の暴落

AI バブル崩壊の始まりか、それとも絶好の押し目か

2026年6月7日発行

はじめに——私が先週から警告していたこと

先週から今週にかけての日次相場解説で、私は繰り返し伝えていました。

「大きな調整が近づいてきており、準備をしておくのがよい」

その警告通り、6月5日（金）の米国市場は激震に見舞われました。Nasdaq 総合指数は4.18%下落し、終値は25,709。下落幅にして1,121ポイント。これは2025年4月のトランプ関税ショック以来、最大の1日の下げとなりました。

なぜこの下落を予測できたのか。そして今、投資家は何をすべきか。データと市場心理の両面から徹底解説します。

1. 何が起きたのか——数字で見る惨劇

6月5日の終値と主要な下落率は以下の通りです。

- Nasdaq 総合: -4.18% (25,709)
- S&P 500: -2.6% (9週続伸の連勝記録がストップ)
- Dow: -695ポイント
- フィラデルフィア半導体株指数 (SOX): -10%以上 (2020年3月以来最大の1日の下げ)
- 半導体セクター2日間の時価総額消失額: 約1.3兆ドル
- 市場全体の消失額: 約1.7兆ドル
- Bitcoin: -9% (60,000ドルを割り込み)

個別銘柄の下落:

- Nvidia: -6% (時価総額3,000億ドル超消失)
- Micron: -13%
- Marvell: -17%
- AMD: -11%
- Broadcom: 2日間で-20%

たった1日で、半導体セクターから1.3兆ドルが消えました。

2. なぜ暴落したのか——3つの要因

要因①: 予想を2倍以上上回った雇用統計

最大のトリガーは5月の雇用統計でした。非農業部門雇用者数が17万2,000人増加——市

場予想の8万人を2倍以上上回る強烈な数字でした。

「強い雇用 = 良いニュース」のはずが、株式市場にとっては悪夢でした。強すぎる雇用は、FRBが利下げどころか利上げに踏み切る根拠になるからです。実際、CMEのFedウォッチツールが示す12月までの利上げ確率は、発表前の34%から67%へと急上昇しました。10年国債利回りも4.47%から4.55%へ上昇しています。

要因② : BroadcomのAI見通しが市場期待を裏切った

Broadcomが発表した第2四半期決算でAIネットワーク収益が41億ドルと、アナリスト予想の48億ドルを14%下回りました。さらに2026年通年のAI半導体売上高見通しを引き上げなかったことで、「期待に次ぐ期待」で積み上がってきた楽観シナリオが崩れました。

要因③ : 相場の構造問題——「トップヘビー」の限界

米国株はここ数年、ごく少数の巨大テック企業に依存して最高値を更新し続けてきました。3月の底から31%上昇したNasdaqは、明らかに「買われすぎ」の状態にありました。

AIへの設備投資総額は6,600億ドルにまで膨らんでいます。そのリターンが本当に得られるのか——その疑念が、今回の下落の底流にある本質的な問いです。

3. テクニカル分析——どこまで下がるか

SOXの10%超の1日の下落は、2020年3月のコロナショック以来の規模です。ただし当時と異なるのは、実体経済の崩壊を伴っていない点です。今回は「期待の修正」であり、業績の崩壊ではありません。

Nasdaqは25,700付近に一定のサポートゾーンが形成されつつあります。3月の上昇の半値押しとなる24,000~24,500圏が次のサポートとして意識されます。相場が落ち着くかどうかは、今後のFRB発言と次回の経済指標次第です。

4. ファンダメンタル分析——AI相場は終わったのか？

結論から言えば、AIへの長期的な需要は変わっていません。

市場はいま、半導体（シャベルを売る企業）からAIを活用して収益を生むソフトウェア・クラウド企業（土地を耕す企業）へと評価軸を変えつつあります。これは相場の終わりではなく、AI投資の第2ステージへの移行を示唆しています。

5. マインドの分析——パニックに乗じない

大きな下落が起きると、人間の脳はこう叫びます。「全部売って現金に戻れ」。これが最も高くつく行動です。歴史上、暴落の最中に売った投資家が後悔しないケースはほとんどありません。

同時に、「これはチャンスだ」と根拠なく買い向かうのも危険です。正しいマインドは「冷静な待機と段階的な対応」です。

6. 具体的な行動指針

キャッシュポジションがある人へ

今すぐ全額投入する必要はありません。3~5回に分けた分割買いが有効です。第1陣を今週入れ、残りを状況を見ながら2~4週間かけて投入する戦略です。まず購入するなら、今回の下落に対して底堅さを見せた **Microsoft** のようなソフトウェア・クラウド系が優先候補です。

半導体株を保有している人へ

Nvidia、**AMD**、**Micron**などを既に保有している場合、損切りラインを確認してください。含み損が出ていてもパニック売りは禁物ですが、リスク許容度を超過しているなら一部縮小も選択肢です。長期投資家であれば、3~6ヶ月の視点で保有継続が基本方針です。

現在ポジションがない人へ

「相場が落ち着いてから買おう」という考えは理解できますが、落ち着いた頃には価格が戻っています。**FRB**の発言や次回**CPI**の数字を見ながら、少しずつエントリーする戦略を立ててください。

全員に共通すること

今回の下落は「警告」です。ポートフォリオの集中リスクを見直す好機です。**AI**・半導体だけに偏った構成は、今後も同様のリスクにさらされます。ディフェンシブ銘柄やキャッシュとのバランスを再考してください。

まとめ

6月5日の暴落は、突然起きたわけではありません。金利への過度な楽観、**AI**設備投資への疑念、そして「買われすぎ」の相場構造——これらが重なって蓄積されてきた歪みが、強い雇用統計と**Broadcom**の決算ミスという2つのトリガーで一気に解放されました。

私が先週から繰り返し「大きな調整への準備を」と伝えていたのは、こうした構造的な圧力を読んでいたからです。

相場は終わっていません。しかし、簡単な相場でもありません。今後の展開を見極めながら、冷静に、段階的に動くことが、プロの投資家と素人を分ける唯一の違いです。

引き続き、日次解説でリアルタイムの情報をお届けします。